

韓国と日本の生活時間比較

金 希宰 著
姜 文源 訳

1. はじめに

現代人の生活は、時間と空間の中に複雑に組み込まれている。産業社会の登場と共に細分化されはじめた生活のために、人間の行動は以前と比べてさらに複雑、かつ多様化され、これに対する理解は、より複雑になってきた。

近代的な時間の流れの中で、我々の生活を理解すると言う事は、容易な作業ではないが、社会主義国家であったソ連は、1920年代に労働人口の一般的な状態と標準的な生活に関心を持ち、労働組織、管理、生産性の向上と、文化改革の問題、すなわち数多い文盲人口の技術的な熟練、教育水準と文化面への関心の向上に焦点を合わせ、世界で初めて生活時間の研究を行った。

西欧では第2次世界大戦以後、生活時間の研究が活発になり、1980年代には、およそ60回の生活時間調査が、各国で実施された。

日本では1960年以後、5年ごとに調査が行われており、韓国でも1981年から、定期的な国民生活時間調査が行われている。これまで韓日両国の時間活用に関する調査は、主に韓国放送公社（KBS）と日本放送協会（NHK）の調査の結果を比べるのが殆どであった。しかし本研究では、1999年に韓国の統計庁が実施した国民生活時間調査と、日本の総務庁統計局が実施した社会生活基本調査の結果を中心

* 福岡大学経済学部

に比較している。

本研究では (1) 両国の生活調査に対する概要を比較し、(2) 1 日 24 時間がどのような活動で構成されているのか、(3) 行動類型別平均時間でいかなる差があるのか、(4) 各時間帯別の行動割合ではどのような差があるのか、を見る事にしたい。

2. 生活と時間調査 ―韓日両国の生活時間帯調査の概要

韓国の生活時間の基本調査は、韓国統計庁実施によるもので、1999 年 9 月 2 日から 9 月 14 日まで、10 歳以上の世帯員 (1,700 余世帯、42,973 人) を対象にし、1 日 24 時間を 10 分単位で 48 時間ぶん、自己記入で記録してもらい、調査した資料である⁽¹⁾。統計庁で実施した国民生活時間調査には、時間に対する記録以外にも、生活状態に対する意識調査も同時に行われた。統計庁の生活時間調査の目的と有用性を見ると、国民勘定 (National accounts) の把握、労働力の分析、社会変化の把握および対処、生活の質の把握、余暇生活および移動の把握などがあると考えられる (ソン エリ、2001)。

日本の調査は社会生活基本調査⁽²⁾で、1976 年の第 1 回調査以降、5 年ごとに実施されており、ここで使用した資料は、2001 年の第 6 回調査の結果である。調査対象は日本全国 6,400 調査区の中で選ばれた、おおよそ 77,000 世帯に居住する世帯員 21,000 人である。調査時期、特に生活時間に関しては、2001 年 10 月 13 日から 10 月 21 日までの 9 日間の調査で、調査区ごとに指定した連続する 2 日間に対して調査を行った⁽³⁾。

本研究では、韓日両国の生活時間がどの様に配分されているかを明らかにする。詳細な生活行動の分類は現実的には不可能だが、制限された資料の範囲内で 24 時間と言う生活時間の配分を 9 つの行動類型で分類して記述した⁽⁴⁾。日本の場合、2002 年 9 月 30 日に発表された資料で得られた行動の類型を見ると、1 次活動として睡眠、食事。2 次活動として通勤、通学、学業、家事、介護・看護、育児、ショッピング。3 次活動として移動 (通学、通勤を除く)、マスメディア、休養・くつろぎ、学習・研究 (学業以外)、趣味、娯楽、スポーツ、社会的活動、交際・付き合い、療養、その他などとなっている。

日本の行動類型を韓国の統計庁で行った行動分類（大分類）で再変換すれば、おおよそ次の様に再編でき、これを使用する事で、韓日両国の生活時間配分を比較する事ができる。

＜表1＞韓日 行動の分類比較

韓国（行動分類）	日本（行動分類）
個 人 維 持	睡眠、身の回り、食事
仕 事	仕 事
学 習	学 業
家 庭 管 理	家事、ショッピング
家 族 扶 養	介護・看護、育児
参 加 奉 仕	社 会 的 活 動
交 際 、 余 暇	マスメディア、休養、のびやかに休み、学習、研究(学業以外)、趣味、娯楽、スポーツ、付き合い、療養
移 動	通勤、通学、移動（通勤、通学を除く）
そ の 他	そ の 他

3. 24時間生活構成の比較

韓国の週全体の生活時間分布を見ると、全体活動の43%である10時間18分が睡眠、食事、個人衛生などの個人維持活動の為に使われている。次に純粋な可処分時間として、余暇活動が4時間49分で1日の20%を占めており、その次に社会的な活動として、まず労働時間3時間43分で15%、家事活動時間1時間56分（8%）、移動時間1時間35分（7%）、学習時間1時間28分（6%）となっている。

＜表2＞10歳以上 人口の生活時間（韓国）

	全体				男				女			
	週平均	平日	土	日	週平均	平日	土	日	週平均	平日	土	日
個人維持	10:18	10:09	10:15	11:05	10:18	10:10	10:13	11:06	10:18	10:09	10:17	11:04
仕 事	3:43	4:02	3:35	2:13	4:39	5:04	4:31	2:40	2:47	3:01	2:39	1:45
学 習	1:28	1:45	1:07	0:28	1:34	1:51	1:13	0:31	1:22	1:38	1:01	0:26
家 事	1:56	1:53	1:59	2:02	0:28	0:25	0:30	0:41	3:21	3:20	3:27	3:24
参加奉仕	0:03	0:04	0:03	0:03	0:04	0:04	0:03	0:03	0:03	0:03	0:03	0:02

交際余暇	4:49	4:25	5:13	6:28	5:04	4:34	5:31	7:08	4:35	4:16	4:55	5:48
移 動	1:35	1:34	1:41	1:33	1:46	1:45	1:54	1:45	1:24	1:24	1:28	1:22
通勤通学	0:51	0:40	0:37	0:19	1:04	0:55	0:50	0:26	0:37	0:26	0:23	0:13
そ の 他	0:08	0:08	0:08	0:08	0:07	0:07	0:07	0:07	0:09	0:09	0:10	0:09

日本の場合、週平均の生活時間の割合は、個人維持が10時間36分で1日24時間の46%を占めており、次に余暇活動時間が5時間17分で全体の22%、労働時間が3時間39分（15%）、家事2時間6分（9%）、移動1時間3分、（4%）、学習40分（3%）の順になっている。

＜表3＞10歳以上 人口の生活時間（日本）

	全体				男				女			
	週平均	平日	土	日	週平均	平日	土	日	週平均	平日	土	日
個人維持	10:36	10:24	10:13	11:23	10:30	10:16	10:44	11:23	10:42	9:55	10:54	11:27
仕 事	3:39	4:18	2:39	1:26	4:56	5:49	3:34	1:26	2:27	2:52	1:46	1:03
学 習	0:40	0:49	0:25	0:01	0:43	0:52	0:27	0:01	0:37	0:46	0:24	0:01
家 事	2:06	2:00	2:17	2:18	0:31	0:23	0:46	2:18	3:34	3:32	3:25	3:35
参加奉仕	0:04	0:03	0:06	0:09	0:04	0:03	0:06	0:09	0:05	0:03	0:06	0:09
交際余暇	5:17	4:57	6:21	7:04	5:04	5:08	6:47	7:04	5:04	4:39	5:50	5:43
移 動	1:03	1:05	1:04	0:57	1:13	0:30	1:10	0:57	0:55	0:55	0:57	0:54
通勤通学	0:31	0:38	0:21	0:08	0:41	0:50	0:27	0:10	0:22	0:27	0:14	0:06
そ の 他	0:16	0:14	0:19	0:23	0:14	0:12	0:18	0:23	0:18	0:16	0:02	0:24

両国の平均生活時間を平日、土曜日、日曜日の順に見ると、次のとおりである。まず平日の生活時間を見ると、日本は個人維持（+15分）、労働（+8分）、交際・付き合い、及び余暇（+32分）、家事（+7分）に、韓国より多くの時間を使っており、韓国は学習（+56分）、移動（+29分）に、日本より多くの時間を使っている事がわかる。

土曜日の場合も、日本は韓国に比べて個人維持（+4分）、家事（+18分）、交際・付き合い、及び余暇（+52分）活動などで、韓国より多く時間を使っているが、労働時間の場合、韓国は土曜日に平均3時間35分で、日本の2時間39分に比べて56分程度長い事がわかった。さらに移動時間、学習時間においても、それぞれ37分、32分と、韓国の方が日本より長い事がわかる。韓国の場合、土曜日の労働が平日に比べて27分短縮されているのに対し、日本の場合では1時間39分と、韓国に比べて大幅な短縮が見られ、相対的に付き合い及び余暇活動の時間が、急激

に増加している事がわかる。日曜日の平均生活時間を見ると、平日の分布の様に、日本は個人維持（+24分）や家事（+8分）、付き合い及び余暇活動（+26分）などで韓国より長い時間、占有を見せており、韓国は移動（+36分）、労働（+53分）、学習（+25分）などで日本より長い時間、占有を見せている。

韓日両国の、曜日ごとの平均行動時間の比較を通じて把握できる事は、次の通りである。

- ① まず週全体からすれば、韓国は日本の平均時間に、だんだんと近づいているが、個人維持および付き合い・余暇活動などでは、日本の平均時間の方が長く、また学習、移動などの活動では、韓国の平均時間の方が日本より長い事がわかる。
- ② 平日は、日本の場合、個人維持、家事、付き合い及び余暇活動などで、韓国に比べて長い平均時間を示しており、韓国の場合は、学習、移動などで長い平均時間を示している事がわかる。
- ③ 土曜日には、日本の場合、労働時間が急激に短縮される一方、韓国は相変わらず平日並みの労働時間を示しているのが特徴であった。
- ④ 日曜日の場合、日本は個人維持、家事、付き合い・余暇活動などで、韓国に比べて長い時間を使っており、韓国の方は仕事、学習、移動時間が、日本に比べて長い事がわかった。

4. 行動類型別平均時間

1) 個人維持活動

個人維持活動とは、1日の生活の中で必ず必要な、生理的活動に使われる時間として、主に食事、睡眠、及び個人衛生などの個人管理時間に分類できる。睡眠時間は平日と日曜で、韓国が日本に比べてそれぞれ平日が4分、日曜日が6分長く、土曜日は日本が韓国に比べて12分長い事がわかった。個人衛生を含めた個人管理時間は、やはり平日（+14分）、土曜日（+15分）、日曜日（+18分）と、男女ともに日本の方が長い事がわかる。

＜表4＞ 個人維持活動時間の比較

		全体		男		女	
		韓	日	韓	日	韓	日
睡眠	平	7:39	7:35	7:43	7:41	7:36	7:29
	土	7:44	7:56	7:45	8:04	7:43	7:49
	日	8:31	8:25	8:35	8:35	8:27	8:16
食事	平	1:32	1:37	1:34	1:34	1:31	1:40
	土	1:33	1:40	1:34	1:37	1:32	1:43
	日	1:37	1:43	1:38	1:40	1:37	1:46
個人管理	平	0:58	1:12	0:54	1:01	1:02	1:22
	土	0:58	1:13	0:54	1:03	1:01	1:22
	日	0:57	1:15	0:54	1:05	0:59	1:25

2) 仕事・学習活動

一日（24時間）の間で一番重要な時間は、生産活動を行う労働活動の時間であった。韓日の両国の平均労働時間を見ると、平日の場合は全体として、韓国に比べ日本が16分長い⁵⁾が、女性の勤務時間では韓国（＋9分）の方が長い。

土曜日の場合、韓国人が日本人に比べて長い労働時間（＋56分）を見せている。韓国の場合、とりわけ労働強度が強い職種であればあるほど、平日の労働時間とほぼ同じである⁵⁾。日曜日と同じく、韓国の方が日本に比べて47分長い事がわかる。

次に両国の国民の正規教育時間への平均的な投与時間を見ると、平日、土曜日、日曜日ともに、韓国が日本に比べて長い事がわかる。

勿論、学習活動時間は、小学校、中学校、高等学校などを別個選別して比べる必要があるのだが、一応ここでは教育に投資する平均時間が、韓国は日本に比べて長い事がわかった。

＜表5＞ 仕事・学習活動の比較

		全体		男		女	
		韓	日	韓	日	韓	日
仕事	平	4:02	4:18	5:04	5:49	3:01	2:52
	土	3:35	2:39	4:31	3:34	2:39	1:46
	日	2:13	1:26	2:40	1:50	1:45	1:03
学習	平	1:45	0:49	1:51	0:52	1:38	0:46
	土	1:07	0:25	1:13	0:27	1:01	0:24
	日	0:28	0:10	0:31	0:10	0:26	0:10

3) 家事・家庭の活動時間

人々は家庭と言う垣根を土台に、労働を初め多様な生活を送っている。家庭を持つ意味は世代によって異なり、家族と一緒に過ごす時間もまた違うわけである。一般的に産業社会への移行過程で、家庭と作業場が分離した結果、家庭は単純に消費単位へと転落しており、貪欲的な資本家によって婦女子および児童が、家庭から作業場に生活空間の多くの部分を移さなければならなくなった。現代社会の家庭活動は、主に家庭を運営する家事労働時間と家庭構成員の面倒を見る時間に大別する事ができる。

＜表6＞ 家事 家庭活動 時間 比較

		全体		男		女	
		韓	日	韓	日	韓	日
家事 ショッピング	平	1:28	1:44	0:18	0:20	2:37	3:04
	土	1:35	2:01	0:22	0:39	2:46	3:19
	日	1:39	2:03	0:29	0:47	2:49	3:14
子供の養育 お年寄りの 扶 養	平	0:25	0:16	0:07	0:03	0:43	0:28
	土	0:24	0:16	0:08	0:07	0:41	0:24
	日	0:23	0:15	0:12	0:07	0:35	0:21

韓日両国の家事活動時間は、日本が平日（+16分）、土曜日（+26分）、日曜日（+24分）とも、韓国に比べ長い事がわかる。一方、子供の養育やお年寄りの扶養などの時間は、韓国の方が日本に比べて平日（+9分）、土曜日（+8分）、日曜日（+8分）ともに長い事がわかる。また男性（平+4分、土+1分、日+5分）よりも、女性（平+15分、土+17分、日+14分）の差が大きい事がわかる。

4) 付き合い及び余暇活動

24時間の生活時間の中に、個人が過ごす自由時間を余暇時間とする。余暇時間は全般的に、日本の方が韓国に比べて長い事がわかった。日本の場合、平日4時間57分、土曜日6時間21分、日曜日7時間4分で、韓国に比べてそれぞれ平日32分、土曜日1時間12分、日曜日36分長い事がわかった。韓国の場合、土曜の余暇時間は平日に比べて48分長く、日曜日は土曜日に比べて1時間5分長く、平日と土曜との差はなかった。これに比べて、日本は土曜日の余暇時間は平日に比べて1時間23分と長く、日曜日は土曜日に比べて43分長く、韓国と対比的な結果を見

せている。この結果は、韓国は未だ土曜休務制が普及してないのに比べて、日本の場合は週40時間労働が広く適用されてきた結果であると考ええる。

さらに両国の余暇活動の大部分を占めるマスコミの利用と付き合い活動を比べてみると、まずマスコミの利用は、日本が平日（＋12分）、及び土曜日（＋8分）が長く、韓国は、日曜日（＋6分）が長い事がわかった。付き合い活動は、韓国の方が平日（＋28分）、土曜日（＋21分）、日曜日（＋24分）ともに長く、相対的に社会的な関係の為に過ごす時間が長い事がわかる。

＜表7＞ 重要余暇活動 時間 比較

		全体		男		女	
		韓	日	韓	日	韓	日
余 暇	平	4:25	4:57	4:34	5:08	4:16	4:39
	土	5:13	6:21	5:31	6:47	4:55	5:50
	日	6:28	7:04	7:08	7:43	5:48	5:43
マスコミ 利 用	平	2:10	2:22	2:14	2:22	2:06	2:21
	土	2:36	2:44	2:40	2:57	2:32	2:32
	日	3:16	3:10	3:32	3:36	3:00	2:46
交際活動	平	0:49	0:21	0:43	0:19	0:55	0:23
	土	0:57	0:36	0:53	0:37	1:01	0:36
	日	1:06	0:42	1:09	0:44	1:03	0:40
消極的な 余 暇	平	3:02	4:02	3:15	3:57	2:48	4:07
	土	3:36	4:36	3:53	4:48	3:19	4:08
	日	4:18	5:00	4:54	5:36	3:50	4:44
積極的な 余 暇	平	1:23	1:12	1:19	1:26	1:28	0:51
	土	1:37	2:10	1:38	2:23	1:36	1:50
	日	2:10	2:36	2:14	2:30	1:58	1:32
参加及び ボ ラ ン テ ィ ア	平	0:04	0:03	0:04	0:03	0:03	0:03
	土	0:03	0:06	0:03	0:06	0:03	0:06
	日	0:03	0:09	0:03	0:10	0:02	0:09

余暇活動を積極的な余暇（社会活動、付き合い、学習研究、趣味娯楽、スポーツ）と消極的な余暇活動（マスコミ利用、休養、療養、その他）で分けて両国の傾向を比べて見ると、もちろん余暇活動構成上の差によるものかもしれないが、消極的な余暇は全般的に、日本が韓国に比べて長い事がわかる。消極的な余暇活動は、平日の場合、韓国が日本に比べて11分長く、土曜日と日曜日には、それぞれ34分、並びに26分程度、日本の方が長い事がわかる。参加およびボランティア時間は、韓国の場合、ボランティア活動以外に参加活動までが含まれている為、直接的な比

較は難しい。

5) 通勤・通学などの移動時間

前産業社会と比べた産業社会の特徴は、家庭と作業場の分離にあると考えられる。作業場への移動時間は、都市化の過程で一層増加した。また生活空間のさらなる分割過程で、空間への移動に、より長い時間を投与しなければならなくなった。空間移動を円滑にする為には、鉄道、道路、港湾などのインフラの拡充が前提となる。

この様な視点から見ると、日本の大衆交通施設および都市基盤施設は、韓国に比べて優れている為、韓国の方が移動時間が長くなるのは明らかである。韓国は通勤・通学時間が日本に比べて平日で13分、土曜日で28分、日曜日で14分と長く、その他の主な活動に係わった移動でも、平日で3分、土曜日で9分、日曜日で22分と長かった。

移動に必要なとなる時間の長さが、韓国に比べて日本が長いと言うのは、もちろん大衆交通機関や道路などのインフラが係わってはくるが、これと共に考察すべき要素として、社会的活動性（時間の速度など）があげられる。

＜表8＞ 通勤・通学及びその他移動時間の比較

		全体		男		女	
		韓	日	韓	日	韓	日
通勤通学	平	1:04	0:38	1:12	0:50	0:42	0:27
	土	0:49	0:21	1:03	0:27	0:32	0:14
	日	0:22	0:08	0:29	0:10	0:15	0:06
その他移動時間	平	0:30	0:27	0:33	0:25	0:42	0:28
	土	0:52	0:43	0:51	0:43	0:56	0:43
	日	1:11	0:49	1:16	0:51	1:07	0:48

韓日両国の曜日別、男女別、平均行動時間を比べた結果、次の事を結論付ける事ができる。

- ① 個人維持活動時間は、概ね日本の方が韓国に比べて長かった。ただし、睡眠時間の場合、平日、日曜日の睡眠時間は、韓国の方がそれぞれ4分、並びに6分長い事がわかった。
- ② 労働時間は、平日には日本が長く（+16分）、土曜日と日曜日の労働時間は、

韓国の方が長かった。正規教育課程に投与する時間は、韓国が若干長かった。

- ③ 家事活動時間は平日、土曜日、日曜日ともに日本の方が長く、家族の面倒を見る時間は韓国の方がやはり長くなっており、韓国ではとりわけ女性の平均時間がより長いとの結果であった。
- ④ 余暇活動時間は、日本は韓国に比べて平日、土曜日、日曜日ともに長く、日本は平日に比べて、土曜の余暇時間が韓国より長かった。韓国の方は、土曜日に比べて日曜日の余暇時間が、日本より長かった。さらに両国とも、消極的な余暇活動であるマスコミの利用時間が最も長く、積極的な余暇活動時間は、平日は韓国が、土曜と日曜日は日本の方が長かった。
- ⑤ 通勤・通学を含めた移動時間は、平日、土曜日、日曜日ともに、韓国の方が日本に比べて長かった。

5. 時間帯別行動者の割合の比較

時間帯別行動者の割合を比べる事で、両国国民の行動が1日24時間のどの時間帯に、どのように分布されているかを明らかにする事ができる。平均時間の比較が24時間の内で特定行動の構成比率と関連があれば、時間帯比較は特定時間における行動構成を表していると言える。1日を24時間に分けた場合、各時間帯の主要行動割合を明らかにするのが、時間帯比較の目的である。

＜表9＞ 平日の時間帯別行為割合

平日	個人維持		仕事		学習		家事		育児看護		参加奉仕		交際余暇		移動		その他	
	韓	日	韓	日	韓	日	韓	日	韓	日	韓	日	韓	日	韓	日	韓	日
0時	87.2	84.9	2.7	2.2	1.6	0.6	0.5	0.4	0.3	0.2	0.0	0.0	6.8	10.9	0.7	0.6	0.0	0.3
1時	92.4	91.8	2.1	1.6	1.0	0.4	0.3	0.2	0.2	0.1	0.0	0.0	3.6	5.5	0.4	0.3	0.0	0.1
2時	96.0	95.7	1.7	1.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0	1.3	2.4	0.4	0.2	0.0	0.1
3時	97.0	97.1	1.4	1.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.1	0.0	0.0	0.8	1.2	0.3	0.2	0.0	0.0
4時	96.5	97.3	1.5	1.3	0.0	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2	0.0	0.0	1.0	0.9	0.5	0.2	0.0	0.0
5時	90.9	94.6	2.3	1.6	0.0	0.1	1.9	1.3	0.4	0.2	0.0	0.0	3.3	1.6	1.2	0.4	0.0	0.1
6時	73.7	82.9	4.8	2.5	0.2	0.1	8.6	8.1	1.2	0.3	0.1	0.1	8.0	4.3	3.4	1.5	0.0	0.3
7時	53.4	64.1	7.5	5.1	1.3	0.1	13.5	13.4	3.3	0.8	0.0	0.1	11.1	7.3	9.8	8.7	0.0	0.4
8時	29.9	32.7	14.8	19.2	7.4	1.1	11.3	13.5	4.4	1.4	0.2	0.1	13.1	13.7	18.9	17.8	0.1	0.6
9時	15.7	13.2	30.2	41.0	15.9	5.6	9.0	13.1	2.5	1.8	0.4	0.3	17.0	17.2	9.3	6.8	0.2	1.1
10時	13.3	7.8	34.0	43.1	16.7	6.1	8.2	10.4	1.9	1.7	0.5	0.5	17.8	24.0	7.3	4.8	0.4	1.6

11時	11.2	6.3	36.7	46.9	17.0	6.4	6.6	10.1	1.9	1.9	0.7	0.6	18.8	22.2	6.5	3.9	0.6	1.8
12時	32.5	52.0	19.9	17.9	15.0	4.6	7.6	6.8	1.6	1.0	0.4	0.3	14.5	12.4	8.1	4.3	0.4	0.8
13時	35.3	16.8	23.5	38.7	5.9	3.6	7.0	7.1	1.5	1.5	0.5	0.4	18.6	26.8	7.4	4.1	0.3	1.1
14時	15.3	6.9	32.8	44.7	17.1	5.7	5.7	8.0	2.4	1.9	0.6	0.5	17.4	26.7	8.2	4.0	0.6	1.5
15時	13.0	4.9	33.4	40.2	15.7	5.2	5.6	8.9	2.6	2.2	0.5	0.5	19.4	31.7	9.2	4.6	0.6	1.8
16時	12.2	4.7	34.1	43.1	11.4	2.9	6.5	11.4	2.5	2.3	0.6	0.4	20.8	26.9	11.4	6.6	0.5	1.8
17時	10.2	7.1	33.9	35.0	8.3	1.5	9.1	17.1	2.4	2.1	0.5	0.3	22.0	25.5	13.1	9.8	0.5	1.7
18時	15.3	20.4	24.4	23.1	5.7	1.1	13.4	19.8	2.0	1.6	0.3	0.2	21.9	22.4	16.2	10.3	0.7	1.2
19時	27.1	34.4	14.5	14.2	6.8	0.7	12.2	12.2	2.2	1.4	0.2	0.3	23.3	27.8	12.8	8.0	0.8	1.0
20時	21.3	23.2	10.4	9.6	7.9	0.8	9.5	8.6	2.8	1.9	0.2	0.4	37.9	48.2	8.9	5.9	1.2	1.4
21時	16.1	24.3	8.0	6.6	7.5	1.0	5.9	4.9	3.0	2.1	0.1	0.2	50.0	54.4	7.9	4.8	1.6	1.7
22時	32.3	37.3	6.1	4.5	5.4	1.0	4.6	2.9	2.2	1.0	0.1	0.1	40.4	47.7	6.6	3.4	2.3	2.1
23時	59.3	61.7	4.2	3.1	3.5	0.9	2.8	1.6	1.0	0.5	0.0	0.1	23.7	28.8	3.8	1.9	1.8	1.6

まず平日の時間帯別行動割合を比べて見る事にしたい。個人維持活動が韓国の場合、午前5時、6時、7時、8時台の割合が、それぞれ90.0%、73.7%、53.4%、29.9%と言う分布を見せているのに対して、日本は94.6%、82.9%、64.1%、32.7%と言う分布を見せており、これから韓国の起床時間および朝が、日本より早く始まると考えられる。仕事に係わった分布では、仕事が集中的に行われる午前9時から11時、午後1時から午後5時の間の割合が、韓国に比べて日本が高かった。これは平日の平均労働時間で、日本が韓国に比べて長い労働時間を過ごしている事を、再び認識させられる結果であると考えられる。

とりわけ正午の時間帯の個人維持の割合と労力割合を見ると、韓国に比べて日本の昼休みが標準化されている事がわかる。韓国の場合、12時、13時の個人維持の割合が32.5%、35.3%に分かれているのに対して、日本の割合は52.0%、16.8%を示しており、これらから、大多数の日本人は、昼食を12時から13時までの間に集中して済ませるのに対し、韓国は日本に比べて相対的に昼休み標準化されていない為、昼食は12時から14時までの間で分散する事が、時間帯の労働割合を見ても確認する事ができる。

学業、育児・看護、移動などでの時間帯別割合が、全般的に韓国の方が時間帯ごとにより高い割合を占めているのは、平均時間での構成割合が、これらの活動で日本に比べて高いからである。勿論、家事やショッピングなどの余暇活動などは、日本の時間帯別行動割合が高く、とりわけ付き合い及び余暇活動の割合は、両国とも午後8時を基準に上昇しており、午前10時まで高い占有率を示している。これ

は、両国の余暇文化であるTV視聴と言う消極的な余暇の割合が高い事が、平日の時間帯調査の結果からも良く表れている。

＜表10＞ 土曜日の 時間帯別 行為割合

土曜日	個人維持		仕事		学習		家事		育児看護		参加奉仕		交際余暇		移動		その他	
	韓	日	韓	日	韓	日	韓	日	韓	日	韓	日	韓	日	韓	日	韓	日
0時	86.9	72.2	3.5	2.3	1.3	0.5	0.3	0.6	0.2	0.3	0.0	0.1	7.0	22.3	0.7	0.9	0.0	0.8
1時	91.8	86.5	2.4	1.9	0.8	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.0	0.0	3.9	10.1	0.6	0.5	0.0	0.2
2時	95.5	92.4	2.0	1.5	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	1.5	0.0	0.5	5.2	0.0	0.4	0.0	0.1
3時	96.7	95.6	1.8	1.3	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0	0.8	2.5	0.2	0.3	0.0	0.1
4時	96.3	96.7	1.6	1.3	0.0	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0	1.0	1.5	0.6	0.3	0.0	0.1
5時	90.9	96.2	2.5	1.5	0.0	0.0	1.9	0.4	0.3	0.1	0.0	0.0	3.3	1.4	1.0	0.4	0.0	0.1
6時	73.7	89.7	4.9	2.1	0.4	0.1	8.8	3.3	1.1	0.1	0.0	0.1	7.6	3.3	3.6	1.1	0.0	0.2
7時	54.8	73.4	7.6	3.4	1.2	0.1	13.9	11.4	3.1	0.5	0.1	0.1	10.2	7.2	9.3	3.7	0.0	0.4
8時	31.3	51.8	15.2	8.5	6.6	0.4	12.0	14.2	3.7	1.0	0.1	0.2	13.6	13.4	17.6	9.8	0.0	0.7
9時	17.6	28.1	29.6	21.0	13.6	3.2	9.9	16.1	2.4	1.6	0.3	0.5	17.6	20.7	8.8	7.8	0.1	1.2
10時	14.7	16.2	32.9	27.1	13.7	3.4	8.8	14.9	1.9	2.1	0.4	0.9	18.9	26.7	8.4	6.5	0.3	2.2
11時	12.1	10.6	36.1	28.7	14.0	3.6	7.4	14.8	2.2	2.2	0.5	1.1	20.0	30.8	7.1	5.6	0.5	2.6
12時	27.7	15.4	22.2	26.8	12.6	3.2	8.7	15.9	1.6	1.8	0.3	0.9	16.1	27.8	10.3	5.9	0.4	2.3
13時	30.0	33.7	21.7	12.8	5.2	1.3	8.3	10.1	2.0	1.3	0.3	0.6	18.3	32.4	13.9	6.6	0.3	1.4
14時	20.8	11.8	28.5	24.6	3.7	1.4	7.2	11.2	2.6	2.0	0.5	1.1	24.0	39.6	12.5	6.3	0.2	2.1
15時	15.9	7.0	28.1	26.0	4.6	1.4	7.3	13.0	2.7	2.2	0.5	1.2	29.1	41.1	11.3	5.7	0.5	2.5
16時	14.6	5.9	28.0	25.3	4.6	1.2	6.9	14.0	2.6	2.1	0.5	1.0	30.4	41.4	11.9	6.5	0.5	2.6
17時	12.0	6.3	27.5	23.6	3.5	1.0	9.3	17.7	2.6	2.1	0.4	0.7	31.1	38.9	12.9	7.5	0.7	2.4
18時	16.0	14.1	20.0	15.7	2.4	0.7	14.5	22.5	2.2	1.8	0.2	0.4	28.6	34.1	15.5	8.8	0.6	1.9
19時	29.0	33.7	12.6	10.2	2.4	0.5	13.0	15.5	2.0	1.4	0.1	0.4	28.3	30.0	11.9	6.9	0.6	1.3
20時	22.4	27.9	9.5	7.4	3.4	0.5	9.2	9.6	2.5	1.6	0.1	0.6	42.9	46.4	8.8	4.7	1.2	1.4
21時	16.0	18.7	8.2	5.6	4.5	0.6	5.9	5.9	2.8	1.9	0.1	0.5	53.6	61.3	7.5	3.8	1.6	1.7
22時	31.7	26.2	6.4	4.1	3.2	0.7	4.0	3.1	2.4	1.4	0.0	0.2	43.5	59.3	6.3	3.1	2.4	1.8
23時	57.9	44.9	4.8	3.1	2.2	0.6	2.3	1.7	1.0	0.6	0.0	0.1	26.0	45.4	4.2	2.0	1.5	1.6

次に土曜日の時間帯別行動割合を見ると、まず韓日両国ともに、平日に比べて個人維持時間、労働、家事・ショッピング、付き合い・余暇活動の割合が変化している。とりわけ土曜日の場合、個人維持活動として睡眠時間が長くなり、一日の始まりが平日の6～7時から7～8時に延ばされるだけでなく、土曜日の就寝時間も平日に比べて遅くなると云う事も、午後11時台個人維持割合の平日と土曜日の比較を通じてわかる。

労働時間の割合は、日本の場合、主な労働活動時間である午前9～11時、午後2～4時の間の労働割合が急激に減少している。さらに両国ともに、付き合い及び

余暇活動割合が、午前と午後にかけて高くなっており、とりわけ日本の場合、労働時間割合とは対照的に時間帯別の占有率が、韓国に比べて高くなっていた。

付き合い及び余暇活動が集中的に行われる時間帯も、平日に比べて高い維持率であり、相対的に睡眠の様な個人維持活動の割合が、午後11時、夜の12時などで低くなっている。韓日両国ともに、移動割合が平日に比べて高くなるが、韓国の場合、土曜日の移動割合が平日に比べて非常に高くなっている。

日曜日の時間帯別行為割合を見ると、個人維持、家事、付き合い及び余暇活動が、時間帯別に占める割合として高くなった一方、仕事や学業の割合が低くなったのが<表11>を見てもわかる。

<表11> 日曜日の 時間帯別 行為割合

日曜日	個人維持		仕事		学習		家事		育児看護		参加奉仕		交際余暇		移動		その他	
	韓	日	韓	日	韓	日	韓	日	韓	日	韓	日	韓	日	韓	日	韓	日
0時	86.2	78.1	2.8	1.8	1.0	0.7	0.5	0.6	0.2	0.2	0.0	0.0	8.5	17.1	0.8	0.3	0.0	0.9
1時	90.5	85.2	2.2	1.6	0.6	0.3	0.3	0.3	0.1	0.1	0.0	0.0	5.5	11.6	0.8	0.2	0.0	0.3
2時	94.8	91.5	1.5	1.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.3	0.1	0.0	0.0	2.4	6.3	0.7	0.1	0.0	0.2
3時	96.7	95.1	1.4	1.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	1.1	3.2	0.4	0.1	0.0	0.1
4時	95.9	96.7	1.5	1.0	0.0	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0	1.5	1.8	0.7	0.1	0.0	0.1
5時	90.7	96.4	2.2	1.1	0.1	0.0	1.6	0.3	0.3	0.1	0.0	0.0	3.8	1.6	1.4	0.1	0.0	0.1
6時	77.1	91.3	4.5	1.6	0.1	0.0	6.7	2.3	0.8	0.2	0.0	0.1	7.4	3.5	3.3	0.3	0.1	0.2
7時	61.8	78.3	6.5	2.4	0.2	0.0	12.2	8.5	1.7	0.4	0.1	0.2	12.0	7.5	5.4	0.9	0.0	0.5
8時	48.0	61.3	9.4	4.3	0.7	0.1	13.0	12.4	2.0	0.8	0.1	0.6	18.0	14.7	8.8	2.3	0.0	0.8
9時	29.6	39.1	14.7	9.3	1.6	0.4	12.7	15.1	2.3	1.4	0.2	1.4	28.3	25.3	10.5	2.2	0.2	1.5
10時	21.3	23.1	17.0	12.6	2.3	0.7	10.9	15.5	2.2	1.9	0.3	2.0	35.1	34.8	10.7	1.5	0.3	2.6
11時	15.6	13.9	18.2	13.8	3.0	0.9	9.3	15.9	2.5	2.2	0.4	2.1	41.4	41.7	9.1	1.3	0.5	3.5
12時	28.5	17.9	11.8	12.8	2.5	0.9	10.3	17.2	1.7	1.8	0.3	1.7	34.5	38.7	10.2	1.0	0.3	3.3
13時	34.8	32.5	11.3	7.6	2.0	0.5	10.1	11.2	1.8	1.3	0.4	1.2	29.4	37.6	10.2	0.8	0.2	2.1
14時	23.1	13.3	15.2	12.0	3.0	0.9	8.7	12.2	2.3	1.8	0.5	1.6	35.5	49.1	11.1	0.8	0.6	2.9
15時	20.8	8.0	16.2	13.2	3.7	1.0	8.0	14.0	2.5	1.8	0.4	1.5	36.5	51.0	11.3	0.9	0.7	3.3
16時	18.1	6.6	16.5	13.1	3.9	0.9	8.4	15.0	2.9	2.0	0.4	1.1	37.2	50.9	12.0	1.0	0.5	3.1
17時	14.7	7.1	16.3	12.4	3.5	0.9	10.9	18.6	2.8	2.0	0.3	0.8	37.5	47.3	13.2	1.2	0.8	2.8
18時	19.1	15.6	13.0	9.4	2.2	0.7	15.4	22.7	2.3	1.6	0.2	0.5	33.9	39.7	13.0	1.4	0.9	2.1
19時	30.6	37.7	8.2	6.8	1.8	0.4	13.3	15.2	2.0	1.2	0.1	0.3	32.1	31.5	11.1	1.2	0.8	1.3
20時	21.1	28.9	6.9	5.2	3.3	0.4	9.3	9.4	2.4	1.4	0.1	0.4	47.6	48.8	8.0	1.1	1.2	1.4
21時	17.6	19.1	6.0	4.1	4.5	0.7	5.8	5.5	3.0	1.9	0.0	0.3	54.4	63.2	7.4	0.9	1.3	1.9
22時	36.5	27.6	4.7	3.2	4.2	0.9	4.7	3.1	2.5	1.4	0.0	0.2	39.7	59.0	5.2	0.7	2.5	2.1
23時	63.0	49.2	3.6	2.4	2.6	0.9	2.4	1.7	0.8	0.6	0.1	0.1	22.8	41.6	3.0	0.4	1.7	1.9

とりわけ日曜日は、土曜日に比べて家事・ショッピング、及び育児・看護の占める割合が高くなっている事が、韓日両国の資料からもわかる。また韓国の場合、時間帯別の移動活動が占める割合が、日本に比べて高い事がわかる。

6. おわりに

本研究では、韓日両国の国民が1日24時間をどの様に分配して生活しているのかを、平均時間および時間帯行動の割合を通じて解析しており、その結果、次の様な事実が明らかになった。まず週全体では、韓国は日本の平均時間に近づいているが、個人維持および付き合い・余暇生活などでは日本の平均時間の方が長く、学習、移動などの活動では、韓国の平均時間が長い事がわかった。さらに平日の場合、日本は個人維持活動である家事、付き合い及び余暇活動などで韓国に比べて長い平均時間を示しており、韓国の方は学習、移動などで長い平均時間を示していた事がわかった。

次に行動類型別では、個人維持活動の時間は、概ね日本の方が韓国に比べて長くなっており、労働時間は、平日は日本の方が、逆に土曜日と日曜日の労働時間は韓国の方が、より長かった。正規の教育課程に投与する時間は、韓国の方が少し長かった。家事活動の時間は平日、土曜日、日曜日ともに日本が長く、家族の面倒を見る時間は、韓国が長くなっていた。余暇活動時間は、日本が平日、土曜日、日曜日ともに長かった。さらに両国とも、消極的な余暇活動であるマスコミの利用時間が長く、積極的な余暇活動の時間は、平日は韓国が、土曜日、日曜日は、日本が長かった。

時間帯別の行動割合を見ると、平日の1日の始まりは、日本に比べて韓国の方が早く、労働時間における行動割合は、日本が韓国に比べて高く、日本は昼休みが12時から1時までの時間帯に、ほぼ標準化されている。

時間帯別移動の行動割合は、韓国が平日、土曜日、日曜日ともに、日本に比べて高かった。とりわけ日曜日の場合、その格差は格段なものであった。

1日24時間の構成と行動類型別比較を通じて、韓日両国民の生活の差を明らかにしたが、生活時間調査それだけでは限界があり、生活ぶりの差を詳細、かつ体系的に説明する事はできなかった。

ここでは韓日両国における生活時間の比較を記述する程度の分析に留まるが、これを始まりとして、両国民の生活の質的な側面に対する関心が促進される事を望む。

参考文献

- キム ヒゼ・ナム ギソン (2002)、韓国労働者の生活時間、自由アカデミー
イ ギヨン (2001)、国民生活時間活用の国際比較、第7回『統計の日』
記念セミナー発表集、1-12
ソン エリ (2001)、「生活時間調査」開発状況と展望、第7回『統計の日』
記念セミナー発表集、1-12
韓国統計庁 (2000)、1999生活時間調査報告書1、2巻、韓国統計庁
日本国総務省統計局 <http://www.stat.go.jp/data/guide/download/shakai/index.htm>

註

- (1) 韓国統計庁の国民生活時間調査以前の生活時間に関する調査は、1981年から始まり、5年ごとに繰り返される韓国放送公社（KBS）の国民生活時間調査がある。
- (2) 日本の社会生活基本調査は、生活時間の配分および自由時間などの主な活動（インターネット、学習・研究、スポーツ、趣味・娯楽、ボランティア活動、旅行）に対して調査し、日本国民の社会生活の実態を明かにしており、様々な政策の施行に対する基礎資料を得る事を目的とする。
- (3) 本研究では2002年9月30日に発表された資料（<http://www.stat.go.jp/data/guide/download/shakai/index.htm>）を中心に、生活時間の配分を行っている。

- (4) 行動類型に関しては、韓国統計庁の行動分類に合わせて、日本の行動分類を再調整している。つまり、睡眠、身のまわりの用務、食事は個人維持に。家事およびショッピングは家庭管理行動に。介護・看護、育児は家庭の世話に。社会的活動は参加奉仕行動、マスメディア、休養、くつろぎ、学習、研究（学習以外）、趣味、娯楽、スポーツ、交際および付き合いなどは交際および余暇活動に。通勤、通学、移動は移動の行動に、それぞれ分類している。
- (5) これに関しては、労働者の就業時間を比較した（キム ヒゼ他、2002：145）の内容を参考。